



鳳 寿 園 だ よ り



平成 30 年 1 月 1 日発行

介護老人福祉施設・短期入所生活介護
通所介護・訪問介護・居宅介護支援
在宅介護支援センター

〒871-0821 築上郡吉富町大字幸子 803 番地の 1
tel 0979-23-6111

新年 謹賀

昨年 は 多 大 なる

ご 尽 力 を い た だ き

誠 に あ り が と う

ご ぞ い ま し た

本 年 も 更 なる

サ ー ビ ス の 向 上 に

努 め て ま い り ま す の で

よ り 一 層 の ご 支 援

お 引 き 立 て を

賜 り ま す よ う

お 願 い 申 し 上 げ ま す

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。旧年中はご利用者、ご家族をはじめ地域住民の皆様、行政関係者の方々より温かいご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございました。今年も大過なく新年を迎えることができましたことを厚く御礼申し上げます。

以前も申しましたが、仕事納めもなく盆正月も普段と変わらず介護に勤しむ職員とともに二十二年目の新年を迎えました。勿論、今では二十四時間営業の小売店も珍しくなく、それこそ在宅介護に励んでおられる介護者の方々のご苦勞は想像以上かとお察しいたしますが、介護は人の生活に欠かせない大切な仕事であり、「介護離職ゼロ」が重要政策として位置付けられているように、福祉に携わる職員が日本経済をも支えていることは明白な事実であります。

そもそも「介護離職ゼロ」とは、年間約十万人が家族等の介護を理由に退職を余儀なくされていることから介護の受け皿を整備することで労働力を確保し、日本経済の成長を期すというものです。当時、特養の入所待機者は全国で五十二万人と報道されたこともあり、施設の整備が進みました。

しかしながら、人口が減少傾向にある地方では有料老人ホームなどが乱立し、定員割れしている施設もごございます。また、介護職員の人手不足は深刻な状況であり、「介護離職ゼロ」は否定されるものではございませんが、まずは介護現場で働く職員の待遇を改善し、介護の担い手を育成することを優先すべきです。単に施設を増やしても働き手が確保されず、職員の奪い合いや介護の職場を転々とする者も少なくない状況では質の低下を招き、時に悲惨な事件につながりかねません。箱モノ優先ではなく、介護に対する適切な評価、福祉職員の身分保障こそ急務の政治課題として取り組んでいただくことを切望いたします。

また、このようなことを申し上げるのは適当ではないかもしれませんが、職員に労いのお言葉を頂戴できましたら幸いです。特養の入所は重度の方が優先される傾向にあり、ご自身の気持ちを言葉にすることが困難な方も少なくなく、加えてご家族の権利意識の高まりを実感することも多くございます。職員の高まりも重要ですが、福祉を仕事として選んだ理由は「誰かの役に立ちたい、自分が役に立っていることを実感したい」という気持ちによるものです。ご利用者やご家族からの「ありがとう」といった感謝の言葉が、きっと職員の奮起につながるかと存じます。

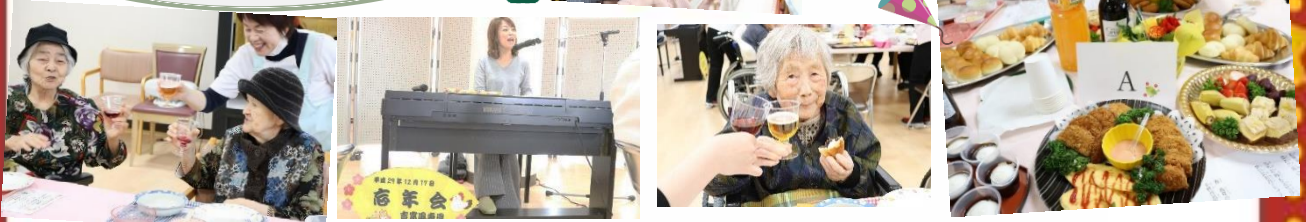
そのような中、平成三十年度介護報酬改定は全体でプラス0.54%となり、実に六年ぶりのプラス改定となりました。介護事業経営実態調査の結果では、介護事業の収支差率は平均3.3%と全産業の平均4.1%を下回っており、特養においては収支差率1.6%で三割以上の施設が赤字となっています。介護職員の処遇改善は歓迎されますが、法人経営自体が危ぶまれ、介護の職に未来や希望を見出せない状況では人材確保や定着は叶いません。

平成十二年に介護保険制度が施行され介護の社会化が図られましたが、営利企業の参入により経営主体が多様化し、残念ながら福祉に理解のない経営者も見受けられるようです。私たちは単に介護サービスを提供する事業者というのではなく、福祉を担う社会福祉法人であることを忘れてはなりません。社会保障財源が切迫する中、私どもにとっても厳しい状況は続きますが、引き続きご利用者、ご家族お一人お一人に分け隔てなく接し、不器用ながらも信頼関係の構築に努めて参る所存でございます。つきましては、本年も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

特別養護老人ホーム吉富鳳寿園

施設長 三笠直樹

忘年会



今年も残りあとわずかとなりました12月17日。2017年の自分を労い、楽しい気持ちで新年を迎えていただく事を目的として、ご利用者と職員で忘年会を行いました。

グラスにワインやビールを注ぎ、乾杯です！「料理を持ち帰りにももらおう」とおっしゃるほど、気に入ってくださるご利用者もいらっしやり、調理員をはじめとする職員にとって嬉しい限りでした。

さらにこの日は認定音楽療法士としてご活躍されている薬丸まゆみ先生をお招きし、歌と演奏を披露していただきました。一緒に歌う方はもちろん、皆さん無意識に身体のだこかを動かし、リズムを取りながら聞き入る姿に、音楽の力を感じました。

また、当日参加できなかったご利用者へ、お名前入りのバスタオルをプレゼントさせていただきました。



餅つき



12月28日、新年を迎える準備として当園では餅つきを行いました。

皆さん餅つきと聞くと、様々な思い入れがあるようで、ワクワクされる様子がこちらまで伝わってきます。ついはお餅をご利用者に丸めていただき、たくさんのお餅を作ることができました。夢中のあまり白くなってしまう顔を笑いあうご利用者の姿がとても印象的でした。最後に温かいぜんざいを召し上がりました。

お鏡餅も出来上がり、新年の準備は整いました。

2018年も吉富鳳寿園をよろしく願いいたします。



当園のさらに詳しい情報はこちら！

社会福祉法人 緑風会 公式ホームページ

<http://ryokufu-k.jp/>

お知らせ情報等を順次更新しております！ぜひ、アクセスしてみてください！
ご意見等ございましたら、ホームページの「お問い合わせ」からお申し付けください。



御神楽



10月8日、木々の葉も色づき、ものみな実りの秋となりました。幸い今年は台風などの災害も少なく地域の皆様多くの収穫を得たようでした。収穫の喜びと感謝の想いを秋の祭りに奉げているようでした。

吉富鳳寿園の庭でも秋祭りの神楽が奉納されました。利用者の皆様を始め職員一同そのおどろおどろしい舞に太古の人々が収穫に感謝する姿を思い、今年の収穫を無事に皆様終えたであろうことを共に感謝しました。

秋のふれあい会 「喜楽」



11月8日、当園ではわかば乳児保育所と合同の文化祭として秋のふれあい会「喜楽」を催しました。

今回の文化祭はなんと、華やかな衣装と賑やかな音楽でお馴染みのちんどん屋さんが園に来てくださいました！ちんどん屋さんの登場に園児さんはびっくり、反対にご利用者は「懐かしいなあ」「前に見たことあるんよ」と話され、会場の目線はステージに釘付けです。「お祭りマンボ」の演奏では、会場の合いの手もばっちり決まりました。南京玉すだれでは、大きな簾が音楽に合わせて様々な形に早変わり！職員も簾をお借りし、皆さんの前で一緒に披露させていただきました。会場内に笑い声が響き渡り、とても賑やかな会となりました。

RUN伴+

11月3日、今年も京築地区にて開催されたRUN伴+(らんともプラス)に参加しました。このイベントは認知症の人や家族、支援者、一般の人が少しずつリレーをしながら1つのタスキをつなぎ、ゴールを目指すものです。

今回は当園が中継地点の1つになりましたので、RUN伴のイメージカラーのオレンジのポンポンを持って、ご利用者と職員でランナーの方々を応援しました。少し休まれたランナーの方々は、ご利用者の「よい、スタート！」の大きな掛け声とともに、次の中継地点を目指して当園を出発されました。



運動会



10月19日、わかば乳児保育所との世代間交流事業として、運動会を開催しました。

トップバッターの園児さんの組体操やバルーンを使っての元気な演技に、ご利用者から拍手と歓声が上がりました。次に、ご利用者は紅白に分かれ、玉入れや一列に並んでの綱渡しゲームなど白熱した戦いを繰り広げました。また、職員によるパン食い競争は、大笑いの楽しい競技となりました。

皆さんの頑張りの結果、今年は僅差で白組が優勝しました。頑張った園児さん達には、ご利用者より手作りのメダルがプレゼントされ、笑顔あふれる運動会になりました。

吉富小学校 交流会

11月6日と9日は、吉富小学校4年生の生徒さんとの交流会がありました。生徒さんの歌やリコーダーの演奏に合わせて、ご利用者も馴染みの歌を口ずさまれました。後半は生徒さんと一緒にグループに分かれ、様々なゲームをしました。この日の為に、生徒さんが作ってくれたすごろくやボーリング、的当てゲームなどで、一緒に興じる姿は本当に楽しそうでした。

最後はみんなで「紅葉」を大合唱し、あっという間の2日間でした。

